



①



②



③



④

地理の写真館 フィジー諸島共和国の点描

昨年9月中旬に一週間訪ねたフィジー諸島共和国は、南西太平洋中央部の南回帰線北側のメラネシア地域にある。面積は約1.8万km²（四国とほぼ同じ）、約330の島嶼を有し、フィジー人（54%）とインド系フィジー人（38%）（2006年）が中心の多民族国家である。大きな島は火山活動により、小さな島々はサンゴ礁の隆起や火山により形成され、貿易風の影響を強く受ける。主島はヴィティレヴ島とヴィヌアレヴ島で国土の約9割を占め、100余りの島々に83万人（2006年）の人々が暮らしている。

最大のヴィティレヴ島（国土の56%）は、人口の約4分の3が集中する政治、経済、観光の中心である。首都スバ（写真①）は島の東南部に位置し、南太平洋有数の都市（人口20.3万人、2001年）で市街地が拡大。西端部には交通と観光の基点であるナンディ（第3都市）がある。街にはインド系の住民も行き交う（写真②）。その北部のラウトカ（第2都市）には大規模な製糖工場（写真③）、砂糖とチップなどの積み出し港がある。

フィジー観光の魅力は、海洋リゾートと伝統的文化（集落）、独特な景観である。1989年以降、観光業は外貨収入で砂糖産業を凌ぎ、フィジー経済の要に発展した。海外からの観光客（訪問者）は約29万

人。オーストラリア（26%）が最大で、アメリカ合衆国（18%）、ニュージーランド（17%）、イギリス（10%）、他の太平洋諸国（7%）、その他（22%）と続く（2000年）。近年、日本からの観光客も増加。ヴィティレヴ島の南部のコーラルコーストやナンディ、またマナ島（写真④）などの周辺離島海域は、世界的なリゾート地として人気上昇している。

ナンディ周辺の2つの伝統的集落を訪ねた。訪問者に対する歓迎の独特な「カバの儀式」や伝統的な「メケの踊り」は、有力な観光対象になっている。つまり伝統の観光化である。コーラルコーストの海岸地域に走るさとうきび列車のレールを兼用した観光鉄道も人気があり、1時間ほどかけてゆっくりと走る列車からは、伝統的集落、さとうきび、キャッサバなどの農地、マングローブ、美しい海岸などの風景が間近に展開していく。また都市機能を異にするナンディ、首都スバ、ラウトカの景観比較も興味深い。

政情不安な面もあるが、国は経済開発の重点として、英領時のインド人移住によるさとうきび中心経済から、産業の多角化と観光業の発展を図っている。

（中部大学国際関係学部・非常勤講師 原 眞一）

写・真・募・集

このコーナーの「カラー写真」を募集しています。海外巡検などで撮影された地理的写真を、資料編集部「地理・地図資料」係までお送りください。